

■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告方法	電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 電子公告掲載 URL http://cleanup.jp/
単元株式数	100株

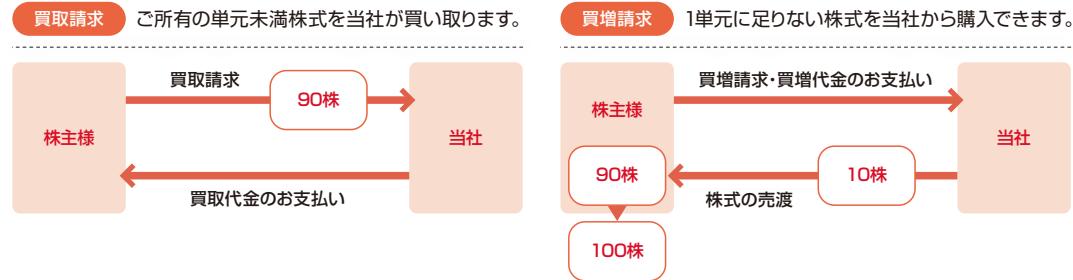
【株式に関するお手続きについて】

- 証券会社等の口座に記録された株式
株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等(口座管理機関)にお問合せください。
- 特別口座に記録された株式
特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。
- 未受領の配当金
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。
- 【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 【同連絡先】
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

■ 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式につきましては、口座管理機関を通じ、当社に対して買取請求または買増請求をすることができます。お手続きの方法等につきましては、口座管理機関(証券会社等または三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部)にお問合せください。

(例) 株主様が単元未満株式を90株ご所有の場合



■ 特別口座をご利用の株主様へ

特別口座は証券会社等に開設された口座と異なり、自由な売買ができる口座ではありません。株式の売買等を円滑に実施するため、証券会社等への口座開設および特別口座からの振替手続きをお勧めいたします。お手続きの方法等につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部までお問合せください。



キッチンから、笑顔をつくろう

株主の皆さまへ 第61期 報告書

2013年4月1日から 2014年3月31日まで

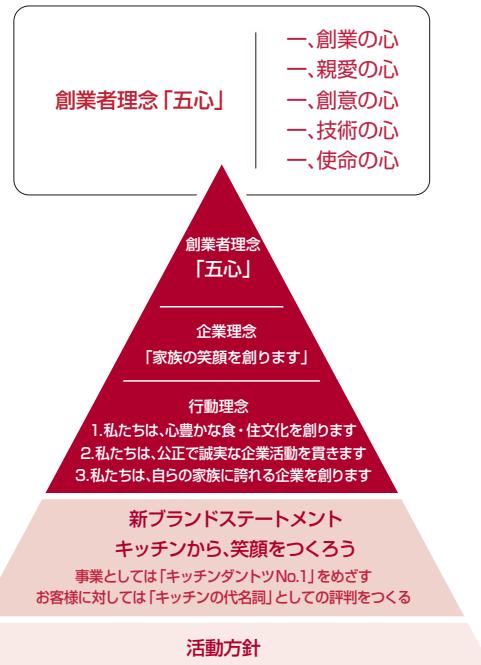




クリナップの企業理念

クリナップは、創業60周年(2009年10月)を契機に、『第二の創業』に向けた新たな一歩を踏み出しております。

■ 新企業理念



上記三つの理念(創業理念・企業理念・行動理念)に根ざした強い人材・組織・事業を育成することにより、経営を強化/高度化し、“The Kitchen Company”を確立します。

株主の皆さまへ

中期経営計画の施策が順調に進捗し
2期連続で大幅な増収増益。
『ザ・キッチンカンパニー』の確固たる
確立に向け、邁進いたします。



代表取締役社長

井上 強一

2014年3月期 連結決算ハイライト

- 売上高は、当初予想を上回るとともに、前年同期比13.4%増となりました。
- 利益面でも当初予想を大幅に上回り、営業利益が前年同期比86.6%増、経常利益が同93.7%増、当期純利益が同98.3%増となりました。

中期経営計画『12中計』の2年目も、確かな成長を続けることができました。

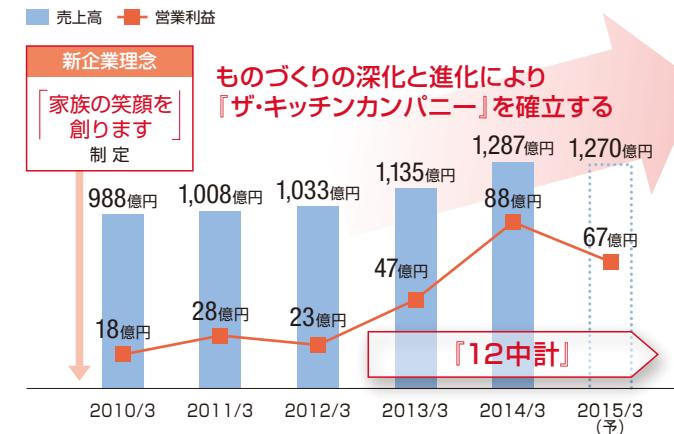
2013年度(2014年3月期)は、中期経営計画『12中計』の2年目でした。専門メーカーとしての地位確立を目指す『ザ・キッチンカンパニー』の取り組みを、生産・商品・営業・ブランドなどすべてにわたって複合的かつ積極的に展開してまいりました。市場環境も、政府による住宅取得支援策に加え消費税増税前の駆け込み需要もあり、新設住宅着工戸数が2014年2月まで18ヵ月連続で前年同月を上回るなど、堅調でした。この内外要因が相まって、当期も大幅な増収増益を果たすことができました。

具体的な施策につきましては、商品の高付加価値化にも継続して取り組み、当期はシステムキッチン「S.S.」の機能強化や、システムバスルーム「ユアシ

ス」のフルモデルチェンジ等を行いました。営業面では、前期に引き続きショールームの積極的な全面リニューアルを行い、当期は前期より7ヵ所多い21ヵ所に及びました。また、当社の会員登録制組織「水まわり工房」加盟店との連携も深め、当期は前期の約1.4倍の4,400回に及びリフォームフェアを開催しました。

2014年度の連結業績は、消費税増税前の駆け込み需要が予想を上回る規模となったこともあり、前年同期比では減収減益を見込んでおりますが、成長トレンドは今後も持続していくことができると考えております。

■ 当社の業績推移と中期経営計画『12中計』の概要



『12中計』の概要

(2013年3月期～2015年3月期)

2013年3月期経営基本方針

『12中計』を徹底的に推進し、
「ザ・キッチンカンパニー」
を確立する

2014年3月期経営基本方針

「ザ・キッチンカンパニー」
の確固たる確立

株主の皆さまへ

『ザ・キッチンカンパニー』の確固たる確立に向け、“深化と進化”を推し進めてまいります。

2014年度(2015年3月期)、当社は創業65周年を迎えます。また、中期経営計画『12中計』の3年目であり仕上げの年となります。この大きな節目の年を、来る創業70周年に向けた“更なる挑戦”をスタートさせる年と認識し、中期経営計画の取り組みをより一層加速させていきたいと考えております。

その基礎となるのが、当社独自の受注生産方式『CPS(クリナップ・プロダクション・システム)』です。当社は、CPSを導入して20有余年、商品を使う人をより身近に感じながら一つひとつ心を込めて大切に造り、その積み重ねの中で、“ものづくりの深化と進化”の弛まぬ取り組みを行ってまいりました。3年前の東日本大震災により操業停止に追い込まれた際に予想以上に早く復旧することができたのも、そうした積み重ねの土壌が生産現場に根付いていたからに他なりません。現在では、BCP(事業継続計画)の観点から生産機能のリスク分散を図るべく西日本地区の生産体制を強化し、東西2生産体制を構築

■ クリナップにおける“ものづくりの深化と進化”



しております。

私どもは、この“深化と進化”の取り組みを、「生産力」の強化のみならず、「商品力」・「営業力」・「ブランド力」・「海外事業力」の強化にも広げ、全部門にわたる複合的な“深化と進化”を推し進めることで『ザ・キッチンカンパニー』の確固たる確立を目指しております。たとえば本年、当社のショールームアドバイザー全380名が「食育インストラクター3級」を取得いたしました。これは、お客さまと直に接する場であるショールームを、単なる商品展示スペースではなく、食文化コミュニケーションを通して家族の笑顔を創るための場とする取り組みです。ショールームは、ハード・ソフト両面の魅力を備えた、“食文化の地域コミュニティ”へと深化かつ進化しつつあると考えております。

株主の皆さまには、当社の今後の成長にご期待いただき、引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

特集: “The Kitchen Company”として65年



クリナップは、“The Kitchen Company”として、
 専門メーカーならではの「モノ」や「コト」を組み合わせ、
 お客さまに「家族の笑顔」を提供します。



「ステンレス」へのこだわり

日本で初めてシステムキッチンを開発して以来
 追求し続けたステンレスへのこだわり

日本のキッチンに常に革命を起こし続けてきたクリナップが、常にこだわってきたのが「ステンレス」です。その耐久性と機能性の高さを最大限に引き出すために、業界トップクラスのクラフツマンたちが、技術の粋を尽くしたモノづくりを継続してきました。S.S.やクリンレディをはじめ当社の製品には、そうした歴史と努力が刻み込まれています。

「食・住文化」コミュニケーション

「心豊かな食・住文化」をテーマとした
 様々なコミュニケーション活動を拡大

全国101カ所のショールームを活用した企画やCSR活動を通して、「心豊かな食・住文化」をテーマとした様々な企画を立案し、お客さまに「家族の笑顔」を提供しています。最近では、サロナーゼによる料理教室や他業種とのコラボレーションなど、新たな試みを取り入れ、積極的に「食・住文化」コミュニケーションを拡げています。(ショールーム数は2014年5月1日現在)

創業以来65年間で培われた“モノづくり”への研鑽が、社会的評価を高め、2つの賞を受賞しました。



第5回ものづくり日本大賞
 東北経済産業局長賞
 「美・サイレントシンク」

公益財団法人 日本デザイン振興会
 2013年度グッドデザイン賞
 「洗エールレンジフード」



主なトピックス



ショールーム関連



富山ショールーム



神戸ショールーム



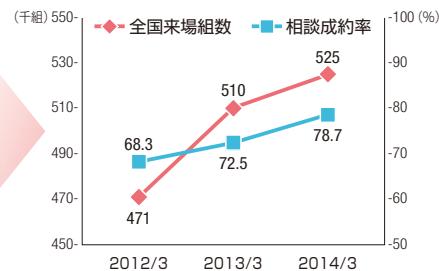
徳山ショールーム

当期は、全国21カ所のショールームを全面リニューアルオープン 各種施策の複合展開により、ショールームの総合競争力強化を推進

大切な顧客接点であるショールームを強化するため、前期よりショールームのリニューアルを積極的に推し進めてきた中、当期は、21カ所のショールームを全面リニューアルオープンしました。各地域で多様化するお客さまニーズに対応しながら、お客さまに心地よい空間を提案するショールームをコンセプトにリニューアル。おかげさまで、一部のショールームにおいて実施してきた、他業種とのコラボレーションや料理教室など、食文化におけるイベントや情報発信を複合展開できるショールームが全国に整ってまいりました。今後もショールームの総合競争力を強化し、魅力あるショールームづくりを推し進めてまいります。

■ 当期のリニューアルショールーム

- | | |
|-----------|-----------|
| 旭川ショールーム | 滋賀ショールーム |
| 盛岡ショールーム | 北大阪ショールーム |
| いわきショールーム | 奈良ショールーム |
| 太田ショールーム | 神戸ショールーム |
| 千葉ショールーム | 徳山ショールーム |
| 多摩ショールーム | 山口ショールーム |
| 相模原ショールーム | 徳島ショールーム |
| 甲府ショールーム | 北九州ショールーム |
| 長岡ショールーム | 福岡ショールーム |
| 富山ショールーム | 佐賀ショールーム |
| 四日市ショールーム | |



全ショールームアドバイザー380名が 食育インストラクター3級を取得

当社では魅力あるショールームづくりとして、ショールームの移転・全面リニューアルや、サロネーゼ(個人教室主宰者)による「食」を通じたイベント開催などを、積極的に展開しています。今回はその一環として、お客さまと直に接するショールームアドバイザーが、キッチンが持つ機能だけでなく、料理をつくること、食べること、食卓を囲むことの楽しみを分かち合えることを目指し、お客さまに、キッチン専門メーカーならではの価値提供を行うため、全国のショールームアドバイザー 380名全員が、NPO日本食育インストラクター協会が認定する「食育インストラクター3級」の資格を取得しました。(2014年3月末在籍)



ショールームにてお客さまと商談するアドバイザー

※同資格は「食育」の理解や実践レベルにより5段階に分かれており、3級は「食育の重要性を理解し、料理技術を向上させ、日々の生活で食育を実践し、身の周りの方々に伝えることができる」とされています。

展示会関連

世界最大級の国際見本市「ミラノサローネ2014」に 当社キッチンを初出展ならびに、ステンレス加工技術を披露

イタリア・ミラノで行われた世界最大級の国際家具見本市である「ミラノサローネ2014」(2014年4月8日~13日)に当社キッチンを初出展しました。今回展示したキッチンのコンセプトは「日本のDAIDOCORO」。イタリアの著名インダストリアルデザイナー、ジュリオ・イアケッティ (Giulio Iacchetti) 氏と、当社開発担当者によるチームが、それぞれに、日本の台所やシステムキッチンの未来形をデザインしました。併せて、65年をかけて培われた当社のステンレス加工・加飾技術を披露し、欧州の方にも十分共感していただける事を実感しました。



CSR関連

「弁当の日」応援プロジェクトの推進

2012年から子供による弁当作りを通じた食育活動「弁当の日」応援プロジェクトに協賛しています。2013年11月9日に、荒川区第六日暮里小学校にて第3回「弁当の日」、事前開催として2013年10月26日に「子ども料理教室」の運営を支援しました。また、2014年3月15日にいわき市に本社を置く大手スーパー「㈱マルト」様が主催された食育講演会「弁当の日がやってきた! 竹下和男講演会」ならびにお弁当コンテストに協賛しました。

※竹下和男氏は、「弁当の日」の発案・提唱者です。



食育講演会の様子



お弁当コンテストのクлинаップ賞を授与するコミュニケーション部長 松尾 昭則

第2回「親孝行って、いいね!」キャンペーンの 授賞式を開催

第2回「親孝行って、いいね!」キャンペーンの授賞式を、2014年5月11日(母の日)にアクアシティお台場にて開催。ファイナリスト5名から選ばれた最優秀エピソード賞には最高級システムキッチン「S.S.」が贈呈され、目録が手渡されました。



授賞式の様子

日本レスリング協会の公式協賛企業に加入

1992年のレスリング部創設以来、CSR活動の一環としてトップレベルの選手の育成とレスリングの普及活動を支援してきました。そしてこの度、レスリング協会・福田会長より感謝状を授与されるとともに、2014年4月1日より、日本レスリング協会の公式協賛企業となりました。



レスリング協会・福田会長より感謝状を受ける弊社取締役・小島輝夫

連結ハイライト情報 / 連結部門別情報

■ 連結財務ハイライト

(百万円)

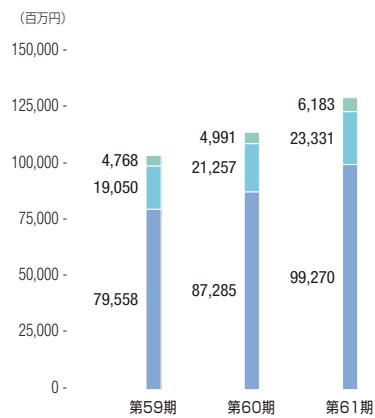
	第59期 2012年3月期	第60期 2013年3月期	第61期 2014年3月期
売上高	103,377	113,533	128,785
営業利益	2,370	4,755	8,873
経常利益	2,083	4,372	8,470
当期純利益	2,155	2,506	4,970
総資産	84,810	85,891	95,932
純資産	53,797	56,033	60,626

■ 部門別売上高 (連結)

(百万円)

	第59期 2012年3月期	第60期 2013年3月期	第61期 2014年3月期
厨房部門	79,558	87,285	99,270
浴槽・洗面部門	19,050	21,257	23,331
その他	4,768	4,991	6,183
合計	103,377	113,533	128,785

■ 厨房部門 ■ 浴槽・洗面部門 ■ その他



厨房部門の主な商品

高級品クラスのシステムキッチン「S. S.」シリーズ、中・高級品クラスの「クリンレディ」シリーズ、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリアバス」、普及品クラスの「ユアシス」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。

第61期の営業概況

市場環境

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府による経済政策や金融緩和策により、円安および株高の動きがみられ、緩やかな回復基調が維持されたものの、輸入原材料の価格上昇や厳しい雇用情勢の継続など、先行き不透明な状況が続いております。

住宅設備機器業界におきましては、政府による住宅取得支援策に加え、消費税増税前の駆け込み需要もあり、新設住宅着工戸数は2012年9月より2014年2月まで連続して前年同月を上回るなど、堅調に推移いたしました。

業績・成果

このような中、当社グループは、『ステンレスエコキャビネット』を標準装備したシステムキッチン「クリンレディ」を中心として、2013年12月に『美コートワークトップ』を標準装備して新発売したシステムキッチン「S. S.」や2013年6月にデザイン性を高めて新発売したシステムバスルーム「ユアシス」など、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るため、4ヶ所を新築移転、17ヶ所を全面リニューアルいたしました。また、当社の会

員登録制組織「水まわり工房」加盟店との連携も深めながら、需要の獲得に努めてまいりました。

生産面では、引き続きVE活動(*)を推進し、原価低減に努めました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、前年同期比13.4%増の1,287億85百万円となりました。利益面では営業利益は同86.6%増の88億73百万円、経常利益は同93.7%増の84億70百万円、当期純利益は同98.3%増の49億70百万円となりました。

*VE活動：VE (Value Engineering) は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

第61期の部門別の状況

部門別にみますと、厨房部門では、システムキッチン「S. S.」は数量、金額とも増、「クリンレディ」は数量、金額とも大幅増、「ラクエラ」は数量、金額とも大幅増となりました。この結果、厨房部門の売上高は前年同期比13.7%増の992億70百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリアバス」は数量、金額とも大幅増、「ユアシス」は数量、金額とも大幅増、洗面化粧台は数量、金額とも増加となりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比9.8%増の233億31百万円となりました。

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表の要旨

(百万円)

流動資産 流動資産は前期末比88億78百万円増加し677億25百万円となりました。これは有価証券が6億99百万円減少した一方、現金及び預金が46億17百万円、受取手形及び売掛金が23億58百万円、電子記録債権が19億36百万円、繰延税金資産が3億3百万円増加したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比11億63百万円増加し282億6百万円となりました。これは繰延税金資産の減少2億83百万円等により、投資その他の資産が2億26百万円減少した一方、生産設備の増強、ショールーム移転・改装等により有形固定資産が11億9百万円増加、情報基盤整備等により無形固定資産が2億80百万円増加したことによります。

資産合計 総資産は前期末比100億41百万円増加し959億32百万円となりました。

	第60期 2013年3月31日現在	第61期 2014年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	58,847	67,725
現金及び預金	24,690	29,307
受取手形及び売掛金	24,931	27,290
電子記録債権	2,464	4,400
その他	6,805	6,778
貸倒引当金	△ 44	△ 51
固定資産	27,043	28,206
有形固定資産	19,496	20,606
建物及び構築物	8,498	8,976
土地	6,704	6,608
その他	4,293	5,021
無形固定資産	1,867	2,148
投資その他の資産	5,679	5,452
投資有価証券	3,074	3,135
その他	2,703	2,378
貸倒引当金	△ 98	△ 61
資産合計	85,891	95,932

	第60期 2013年3月31日現在	第61期 2014年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	22,094	29,822
買掛金	6,849	8,462
その他	15,245	21,360
固定負債	7,762	5,483
長期借入金	3,168	1,569
退職給付引当金	1,793	—
退職給付に係る負債	—	1,089
役員退職慰労引当金	424	424
その他	2,376	2,400
負債合計	29,857	35,306
(純資産の部)		
株主資本	55,578	59,616
資本金	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351
利益剰余金	30,183	34,222
自己株式	△ 224	△ 224
その他の包括利益累計額	455	1,010
その他有価証券評価差額金	450	620
為替換算調整勘定	5	55
退職給付に係る調整累計額	—	334
純資産合計	56,033	60,626
負債純資産合計	85,891	95,932

流動負債 流動負債は前期末比77億27百万円増加し298億22百万円となりました。これは買掛金16億12百万円、短期借入金15億円、未払金18億21百万円、未払法人税等25億33百万円、賞与引当金が1億16百万円増加したこと等によります。

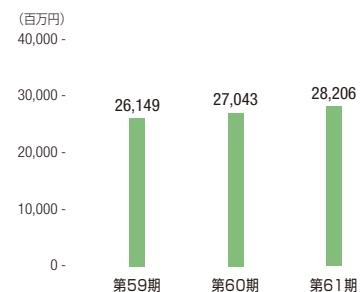
固定負債 固定負債は前期末比22億79百万円減少し54億83百万円となりました。これは、退職給付会計基準の改正に伴い退職給付に係る負債が10億89百万円増加したことや退職給付引当金が17億93百万円減少したこと、さらに、長期借入金が15億99百万円減少したこと等によります。

純資産合計 純資産合計は前期末比45億92百万円増加し606億26百万円となりました。これは配当金の支払い9億31百万円があった一方、当期純利益49億70百万円、その他有価証券評価差額金の増加1億70百万円、退職給付に係る調整累計額の計上3億34百万円があったこと等によります。この結果、自己資本比率は、前期末の65.2%から63.2%になりました。

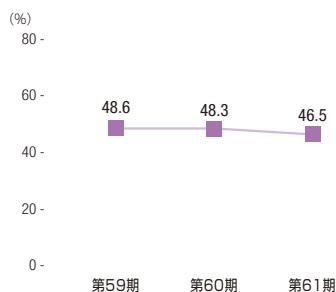
■ 資産合計



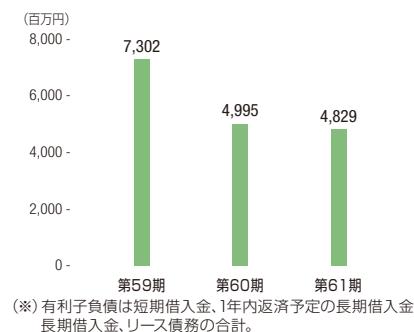
■ 固定資産



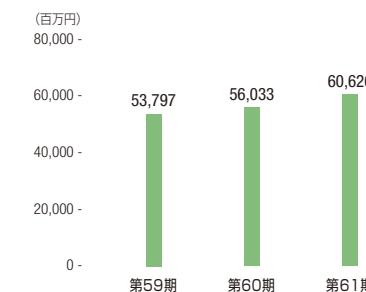
■ 固定比率



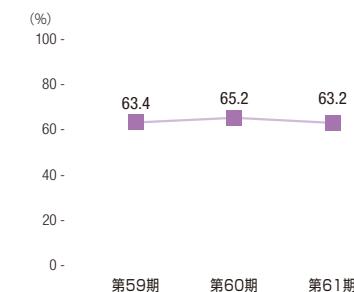
■ 有利子負債



■ 純資産合計



■ 自己資本比率



連結財務諸表

■ 連結損益計算書および連結包括利益計算書の要旨 (百万円)

売上高 厨房部門、浴槽・洗面部門ともに大幅増収となり、売上高は前年同期比13.4%増の1,287億85百万円となりました。

売上原価 S.S.、クリンレディ、ラクエラの原価率ダウン等により、売上原価率が前年同期比0.9ポイント低下し65.0%となりました。

販管費 広告宣伝費が減少する一方で、増収および業務拡大に伴う物流費・人件費等が増加し、販管費は前年同期比21億77百万円増加しましたが、販管費率は同1.9ポイント低下し28.1%となりました。

営業利益 増収のうえ、売上原価率・販管費率がともに低下したことにより、営業利益は前年同期比86.6%増の88億73百万円となりました。

当期純利益 当期純利益は前年同期比98.3%増の49億70百万円となりました。

	第60期 2012年4月1日～ 2013年3月31日	第61期 2013年4月1日～ 2014年3月31日
(連結損益計算書)		
売上高	113,533	128,785
売上原価	74,774	83,730
売上総利益	38,758	45,054
販売費及び一般管理費	34,003	36,180
営業利益	4,755	8,873
営業外収益	512	544
営業外費用	895	948
経常利益	4,372	8,470
特別利益	71	88
特別損失	215	197
税金等調整前当期純利益	4,228	8,361
法人税等	1,722	3,391
少数株主損益調整前当期純利益	2,506	4,970
当期純利益	2,506	4,970
(連結包括利益計算書)		
少数株主損益調整前当期純利益	2,506	4,970
その他の包括利益	195	219
包括利益	2,702	5,190

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (百万円)

	第60期 2012年4月1日～ 2013年3月31日	第61期 2013年4月1日～ 2014年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,305	8,608
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,445	△ 3,393
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,920	△ 1,137
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	39
現金及び現金同等物の増減額	956	4,117
現金及び現金同等物の期首残高	26,248	27,204
現金及び現金同等物の期末残高	27,204	31,321

営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動によって得られた資金は86億8百万円(前年同期比17.8%増)となりました。これは売上債権の増加42億77百万円、たな卸資産の増加49百万円、法人税等の支払額11億8百万円があった一方、税金等調整前当期純利益が83億61百万円と大幅増益で、減価償却費31億15百万円、仕入債務の増加16億12百万円、未払金の増加17億2百万円があったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果使用した資金は33億93百万円(前年同期比1.5%減)となりました。これは有価証券の償還による収入が2億円、投資有価証券の償還による収入が1億68百万円あった一方、生産設備の増設及び改修、ショールーム移転・改装等の有形固定資産の取得に伴う支出が29億62百万円、情報システム構築に伴う支出が9億96百万円あったこと等によるものです。

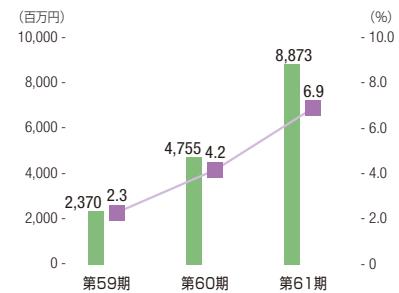
財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果使用した資金は11億37百万円(前年同期比61.1%減)となりました。これは短期借入金の純増が15億円あった一方、ファイナンス・リース債務の返済1億5百万円、長期借入金の約定返済15億99百万円、配当金の支払いが9億31百万円あったこと等によるものです。

現金及び現金同等物の期末残高
現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ41億17百万円増加して313億21百万円となりました。

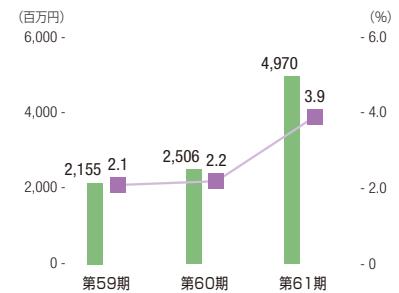
■ 売上高



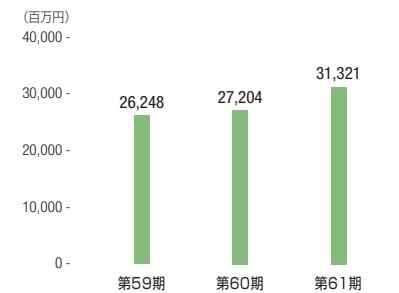
■ 営業利益・営業利益率



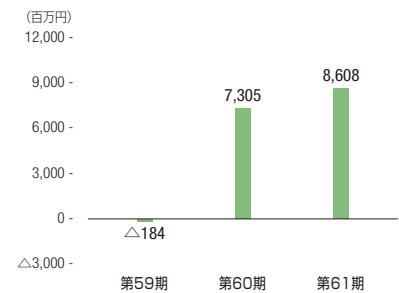
■ 当期純利益・当期純利益率



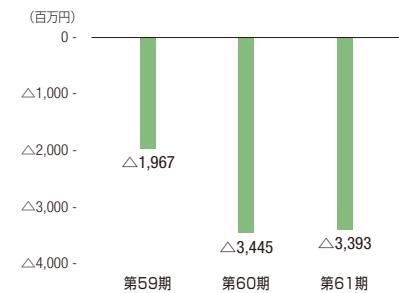
■ 現金及び現金同等物の期末残高



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー



株式関連情報 (2014年3月31日現在)

■ 剰余金の配当について

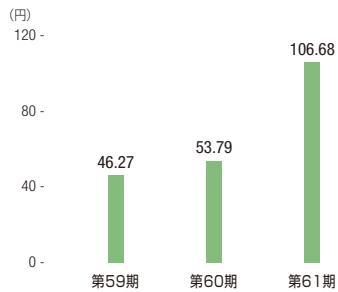
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営方針の一つと考えております。長期的な安定と成長を実現することにより最大の利益を上げ、安定的な配当を長期的に継続していくことを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、新製品生産設備、営業拠点整備、情報基盤整備等の設備投資に充て、効率的な経営による収益力

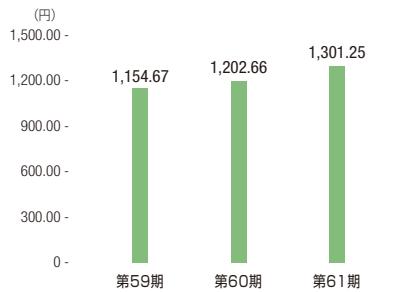
の向上と資本効率の向上に努めてまいります。

なお、期末配当金につきましては、2014年10月5日をもって創業65周年を迎えることへの株主の皆さまへの感謝の意を表するとともに、当連結会計年度の業績も踏まえ、記念配当5円を含め1株当たり15円とし、1株当たり年間25円の配当(普通配当20円、記念配当5円)を実施させていただきました。

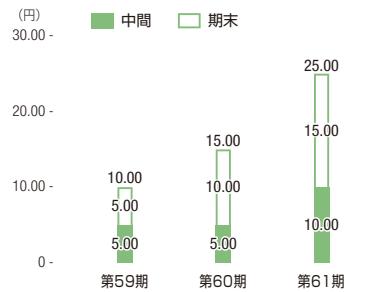
■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産額

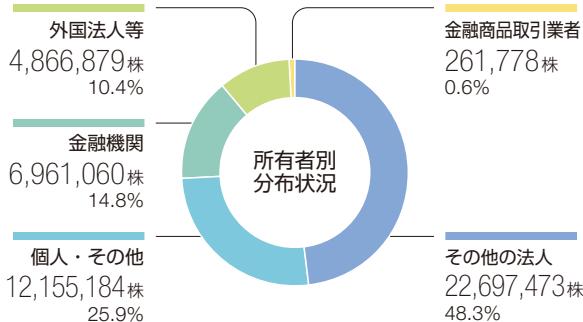


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数 130,000,000 株
 発行済株式総数 46,942,374 株
 株主数 4,424 名



■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社井上	12,476	26.7
株式会社タカヤス	6,829	14.6
クリナップ社員持株会	2,046	4.3
クリナップ実業会	1,874	4.0
クリナップ共進会	1,532	3.2
井上 けよ	1,133	2.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,073	2.3
ザバンク オブ ニューヨークトリートリー ジャステック アカウ	1,011	2.1
株式会社三菱東京UFJ銀行	757	1.6
三菱UFJ信託銀行株式会社	693	1.4

注) 持株比率は自己株式(351,038株)を控除して計算しております。

会社情報

■ 会社概要 (2014年3月31日現在)

商号 クリナップ株式会社
 Cleanup Corporation
 本社所在地 〒116-8587
 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
 電話番号 03-3894-4771(大代表)
 創業 1949年10月5日
 会社設立 1954年10月5日
 上場 1990年2月6日 東証2部上場
 1991年9月2日 東証1部指定
 資本金 132億6,734万円
 主要営業品目 厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
 社員数 連結：3,392名 / 単体：2,673名
 主な事業所 支社：国内3カ所
 支店：国内4カ所
 営業所：国内125カ所
 海外：香港、北京、台湾、ハノイ
 工場：四倉、鹿島システム、湯本、クレート、鹿島
 (いずれも福島県いわき市)

■ 役員 (2014年6月26日現在)

代表取締役社長 井上 強 一 常勤監査役 山根 康 正
 取締役 加藤 亨 一 常勤監査役 山本 幸 男
 取締役 小島 輝 夫 監査役 新谷 謙 一
 取締役 小松 裕 恒 監査役 有賀 文 宣
 取締役 佐藤 茂
 取締役 藤本 眞 一
 取締役 島崎 憲 夫

注) 監査役 新谷謙一および有賀文宣の両氏は、社外監査役であります。



■ ショールーム/全国101カ所 (2014年5月1日現在)

北海道支店ブロック 4カ所 中部支店ブロック 12カ所
 東北支店ブロック 13カ所 関西支店ブロック 26カ所
 東京支店ブロック 28カ所 九州支店ブロック 11カ所
 上信越支店ブロック 7カ所

お近くのショールームをホームページでご確認ください。

<http://cleanup.jp/>

※株主・投資家の皆さまに向けたIR情報(決算情報等)を掲載しております。
 また、「商品情報」をはじめ、ホットな「新着情報」、さらに「生活情報」なども掲載しております。

